

カレッジリンク・シニア住宅

カレッジリンク・シニア住宅とは？

「カレッジリンク」は村田アソシエイツ株式会社の登録商標になっています。
参考文献：リタイアモラトリアム

今回紹介させていただく「カレッジリンク・シニア住宅」とは、端的にいうと「大学と様々な面で連携したシニア住宅」です。米国においては教育機関、リタイアメント住宅、介護・医療施設の3つの機能をもつ、大学を中心としたコミュニティが話題となっており、先行事例といえます。現在私たちは、この先行事例を出発点として、大学とシニア住宅・高齢者施設との連携の日本版としてどのようなものが可能かということを研究しています。このシニア住宅ではシニア入居者が学生として大学の授業を受けたり、逆に特認講師として学生に教えたり、また大学でのボランティア活動に参加することもあるでしょう。さらに健康相談や万が一の際の大学病院との連携も期待できます。日本においては、シニア住宅に対し、介護中心の施設的なイメージを持つ方が多いかもしれませんが、私たちが検討している「カレッジリンク・シニア住宅」の対象は、いわゆるアクティブシニアの方を中心に、大学との連携によって、入居者ひとりひとりがより活発で充実した生活を実現することを目的としています。

学生寮と複合化して実現できないか、可能性を探っています。

私たちは「カレッジリンク・シニア住宅」の対象敷地を現千葉大学学生寮として想定しています。学生寮は現在、老朽化が進み、建替えもしくは大規模修繕が望まれています。そこで「カレッジリンク・シニア住宅」を学生寮と複合化した計画を提案し、！定期借地権方式※と“大学施設借上げ方式”の2つの方式の検討を進めています（表1）。本計画の！定期借地権方式とは、現学生寮の敷地を分割、一方の土地に定期借地権を用いてシニア住宅を建設する案。“大学施設借上げ方式”は、入居者が、千葉大学の科目履修生または講師などとしてシニア住宅に入居することで、シニア住宅を大学の施設として計画する案。こちらの案ではシニア住宅が学生寮を含む施設となります。

ただし、どちらの方式においても国有財産を活用していることから、介護施設としての利用は難しいと考えられ、介護が必要になった場合の転居がスムーズに行われるよう、近隣施設との連携についても現在検討中です。

この提案を実現するためには、大学内部の意思統一をした上で、文部科学省に提案して了承を得ることが必要です。引き続き検討を続けていきたいと思えます。

■ 大学との連携による世代交流型シニアハウジング計画 ■

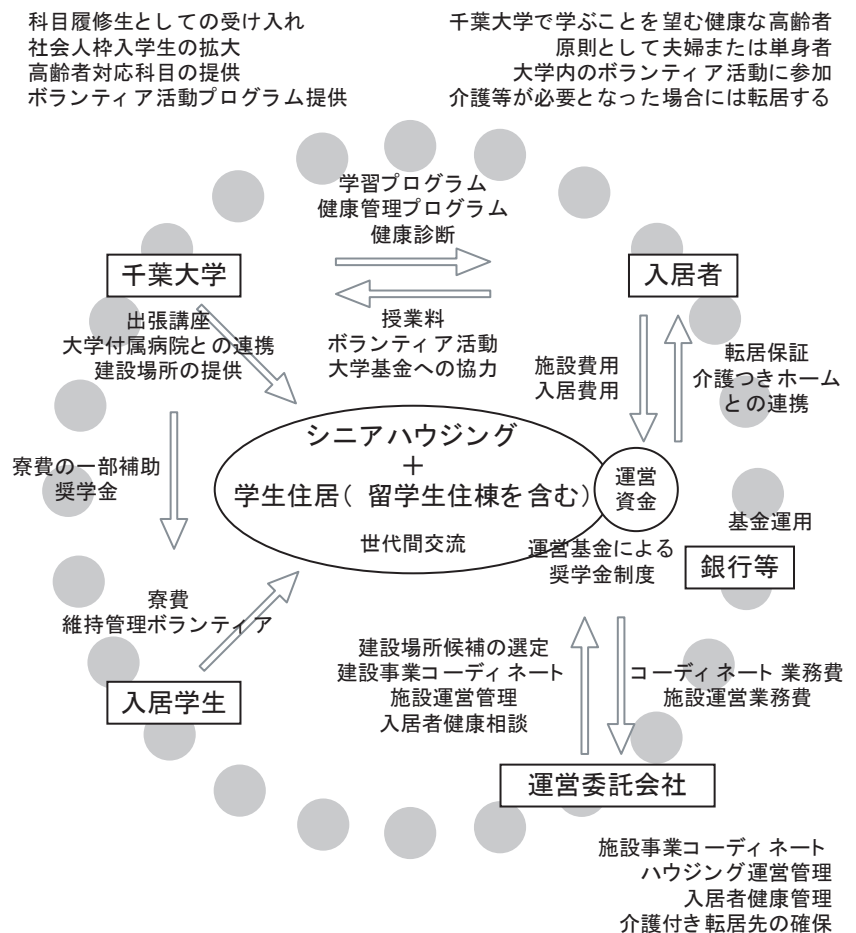
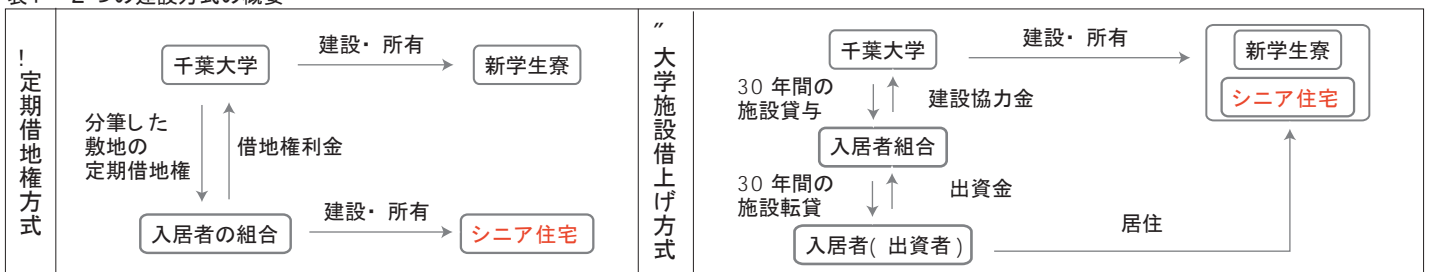


図1 大学の連携とシニア住宅（キャンパス整備企画室作成の事業スキームより抜粋）

※平成18年2月の法律改正に伴って、国有財産（今回の場合は大学の土地）の活用に関して、民間による定期借地権の利用が可能になりました。

表1 2つの建設方式の概要



カレッジリンク・シニア住宅の魅力と可能性

私たちが考える「カレッジリンク・シニア住宅」の魅力と可能性は入居者であるシニア居住者だけでなく、学生、大学、さらには周辺地域にまで広がっていくことが期待されます。

1. シニア居住者の魅力

教える	講演・講義を行う	学生向け出前授業 シニア向け講義
学ぶ	研究・開発を行う	研究施設の利用
	大学の講義を受ける	社会人学生となる 科目等履修生となる 聴講生となる
働く	シニアハウスの維持管理をする	共用施設の掃除 居住者組合の仕事
	ボランティア活動に参加する	大学でのボランティア活動 地域でのボランティア活動
楽しむ	学生と交流をする	大学のイベントに参加 寮の学生と会話
	地域の人と交流する	地域のイベントに参加 パソコン・書物の共有
安心して暮らす	趣味にいそしむ	ガーデニング パソコン
	健康管理をする	栄養バランスのよい食事 大学病院との連携

2. 学生への効果

倫理教育・社会教育の一助
寮施設の共用管理
管理負担減
責任感の向上
世代間交流

3. その他の効果と可能性

大学内の活性化
地域への広がり
地域サポーターの参加
施設利用

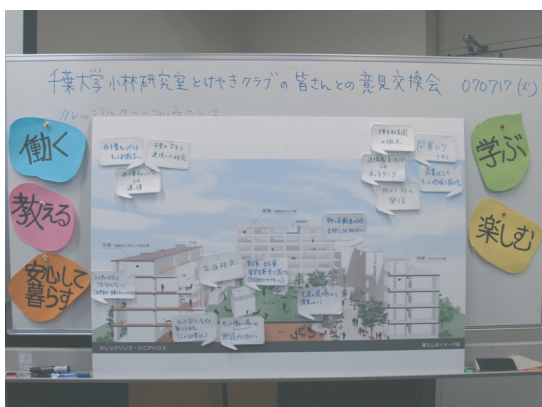


学生によるカレッジリンク・シニア住宅断面イメージ図

けやきクラブ有志の方々と学生とのワークショップ



7月17日、私たちの研究棟にけやきクラブ有志の方々をお招きして「カレッジリンク・シニア住宅」を巡ってのワークショップ（意見交換会）を行いました。はじめに小林秀樹教授、キャンパス整備企画室室長の上野武准教授から主旨説明があり、続いて私たち学生から計画案を説明させていただきました。その後、全員が2つのテーブルに分かれ意見交換。設備内容や生活イメージ、介護の問題、さらには地域の話など様々な意見が飛び交いました。



ワークショップの最後には、各テーブルで出た意見をメモに書き込み、全体で共有。「シニア住宅と近隣教育機関とのネットワークを確立させてはどうか」「自分の研究を外部へ発信できるシステムがほしい」といった学習・研究に関する意見から、「学生とシニアの生活時間帯の違いを考慮した計画を」「入居者はシニアに限らず子育て世代でもよいのでは」といった意見まで、幅広い意見が出ました。加えて、参加していただいたみなさんからは費用や権利関係、介護の話など現実的な質問も多くいただき、今後計画を進める上で実り多い会となりました。ワークショップ終了後、冗談交じりに「この住宅が実現したら真っ先に応募しますよ！」と声をかけていただいたことが何よりうれしかったです。

参加していただいたけやきクラブ有志のみなさん、本当にありがとうございました。